

暦の上ではもう春です

「1月は行く月」「2月は逃げる月」「3月は去る月」とは、よく言ったものです。あっという間に1月が終わる感じです。もう2月になります。

先週は、今季最強の寒波が日本列島を覆い、雪も降ってたいへん寒かったのですが、2月4日は、いよいよ立春です。暦の上では、春のスタートです。

全校集会で子供たちに、節分についてこんな話をしました。

明日からもう2月です。「節分」は、2月4日の立春の前日、2月3日です。節分とは「季節を分ける」という意味です。だから、昔は、立春・立夏・立秋・立冬の前日の季節の変わり目のことをすべて「節分」と呼んでいました。

そして、これらの季節の節目には「邪気」が入ってくると信じられていました。豆まきは、それらの見えない悪いものを鬼に見立て、それを追い払うために行われるようになった風習です。

仏教では、修行の邪魔をする5つの煩惱（人間が誰もが持っているマイナスの感情のこと）を「5つの鬼」に例えて色分けしました。それぞれの色の鬼は次のような性格だそうです。

赤鬼は、欲深くて何でも欲しがると「欲しがり鬼」です。

青鬼は、悪口や嫌なことばかり言ういつも怒っている……「怒りんぼ鬼」です。

黄鬼は、自己中心的で自分勝手にわがままな……「わがまま鬼」です。（後悔の鬼）

緑鬼は、やるきが出ない、だらだらする怠け者の……「なまけ鬼」です。（病気の鬼）

黒鬼は、人を疑ったり、愚痴をこぼしたりする……「人のせい鬼」です。

ただ、これらの「心の鬼」は、豆で外に追い払うことはできません。外から来る鬼よりも、「心の鬼」の鬼退治の方が大変そうです。しかも、この5つの色分けされた鬼は、誰の心にも棲んでいるらしいです。

「心の鬼」は、豆まきだけでは追い出せません。追い出そうという強い気持ちをもって、「心の鬼」の鬼退治をしなければなりません。

自分の「心の鬼」を退治し、残り2か月も笑顔いっぱいあくのうらっ子で、1年間のまとめをしっかりと行い、進学・進級に向けてがんばっていきましょう！

これからの子供たちは、Society5.0 時代という予測困難な未来を担っていく子供たちです。次世代を担う子供たちが未来を生き抜くためには、AI と共生しながら、人間を中心とした理想の社会をつくっていきける力を付けてあげないとはいけません。そのため、学校では、GIGA スクール構想により一人一台の端末「chromebook」による学習も、当たり前になりつつあります。

しかしながら、子供たちを心豊かに育てていくためには、節分などのように、やはり昔ながらのこういった風習や伝統行事を伝えていくことも1つの方法です。日本には、心を育てる良い風習や伝統行事がたくさんあります。子供たちに伝えていけるのは、私たち大人です。

（私は、息子が小さい頃、あまりにも鬼の役をリアルにやりすぎたのか、息子のトラウマになったようで心配した苦い経験もありますが・・・反省です。何より、ためになるその言い伝えや意義をきちんと教えていくことが大切ですね。）

【2月の行事予定】

- 1日(木) 安全の日 チャレンジタイム(国語検定) 委員会活動
- 2日(金) 福祉体験(3年)
- 7日(水) 心の時間 入学説明会(14:15~15:30)
- 8日(木) チャレンジタイム(算数検定) クラブ活動(3年生見学)
- 9日(金) ピースデイ
- 11日(日) 建国記念の日
- 12日(月) 振替休日
- 13日(火) 4年社会科見学
- 14日(水) 縦割り遊び(昼の活動)
- 15日(木) チャレンジタイム(体力) 集団下校
- 16日(金) 避難訓練(予告なし) あくりゅうクラブ
- 18日(日) 家庭の日
- 21日(水) 学校保健委員会 13:00~
授業参観・懇談会 13:55~
臨時育友会総会 15:30~
- 22日(木) チャレンジタイム(体力)
- 23日(金) 天皇誕生日
- 28日(水) 全校集会
- 29日(木) チャレンジタイム(国語検定) 委員会活動

【親愛園との交流会】

1月30日(火)に、次年度新1年生となる親愛園の園児たち9名が飽浦小へ体験交流にやってきました。

まずは、現1年生が体育館で国語の「おおきなかぶ」の劇をしてみせたり、生活科で凧揚げやどんぐりゴマなどで一緒に遊んだりしました。後半は、来年度の6年生(現5年生)が学校の中を案内したり、鬼ごっこや読み語りをしてやったり、お世話をしました。

この交流を通して、1年生は1つ先輩としての、5年生は飽浦小次年度リーダーとしての自覚をもつことができ、自分たちの成長を実感することができました。園児にとっても、入学への喜びや楽しみなど、意欲を高めることができたのではないのでしょうか。

次年度、本校への新1年生の入学予定者数は、現在のところ11名です。そのうち親愛園から6名が入学予定です。入学式が楽しみです。

《校長室の窓から》

もう一度大切にしたい「お天道様が見ている」の精神。

日本人は、宗教心が弱いほうだと言われます。確かに他国に比べると、宗教心による争いごとはありません。親から子供に必然的に伝えられるほどの強制力もありません。多くの日本人は、自分の宗教に対しての自覚がなく、近親者の不幸の際に「へえ、私は〇〇派だったんだ」と気づく人も少ないようです。

宗教心は道徳心につながり、多くの国では信仰する宗教の教えが、そのまま道徳心といえます。では、日本人は道徳心が低いのかというと、そうではありません。むしろ、道徳心に関しては、他国よりも高いのでは、と思います。宗教心の低い日本人が、道徳心が高い秘密には「お天道様が見ている」精神があるからなのです。

すべてのものを見ている(見抜いている)象徴として「お天道様(太陽)」が用いられているのですが、この「お天道様」、本当は「自分の良心」ではないかと思えます。「お天道様」という対象を置くことで、自分の良心と対峙し、自分の良心に問いかけているのです。

それはある種の「人目」ではありますが、人目を気にすることと、自分の良心の声に従うことは、実質的に同じことだと思えます。

親にやってはいけないと言われたことをやってしまうとき(そんなことは誰しもあるもので)、心の疼きを感じる子供であってほしいと願うところです。